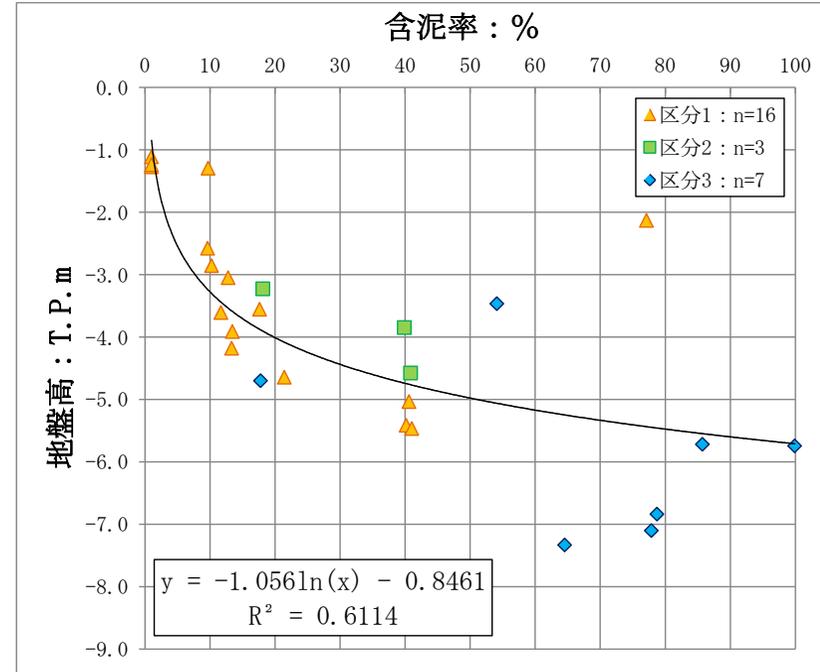
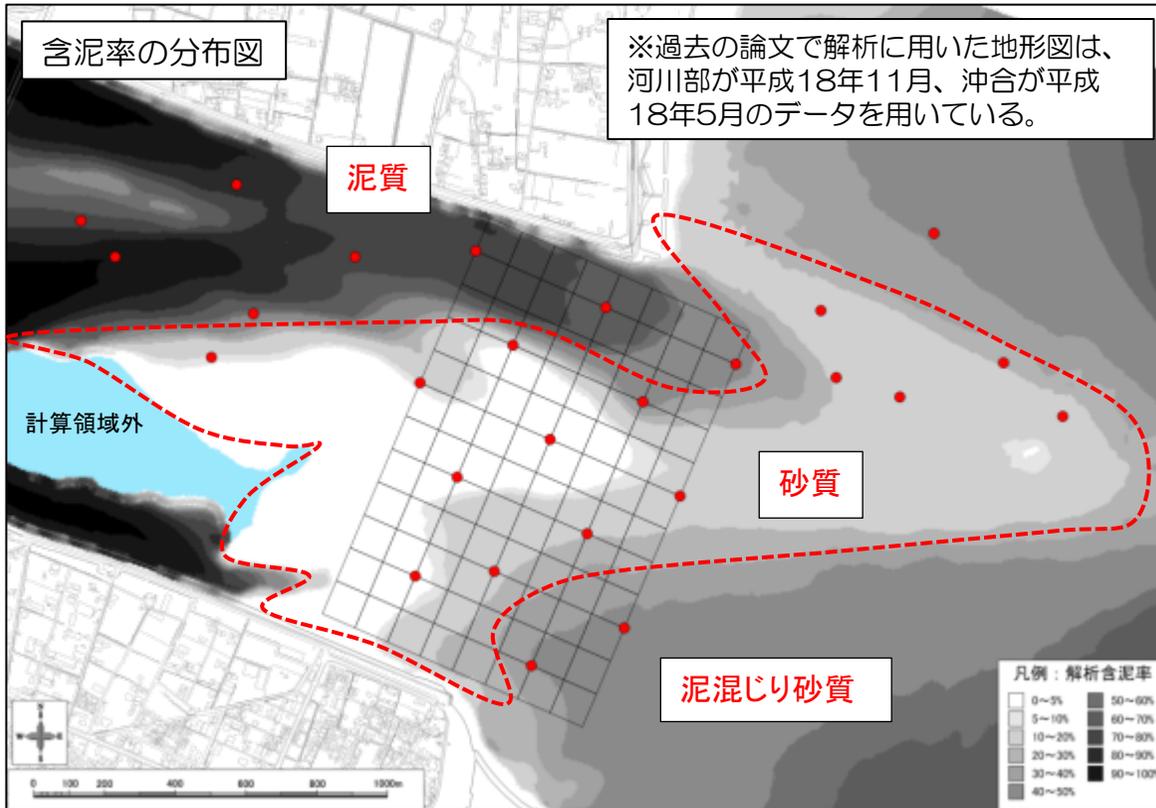


■底生動物のハビタット区分の検討 ②1 ～吉野川河口全体の粒度分布～



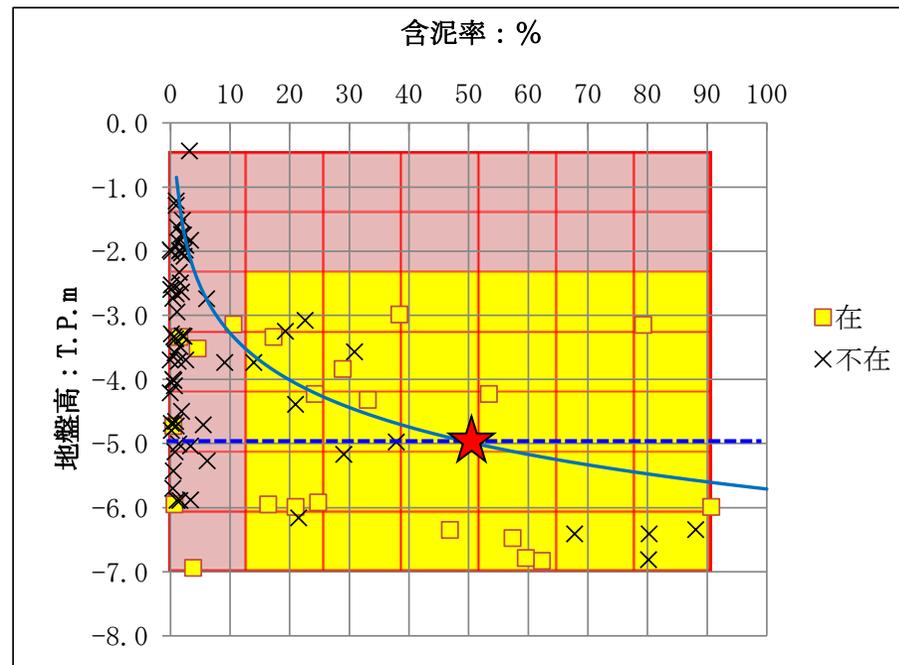
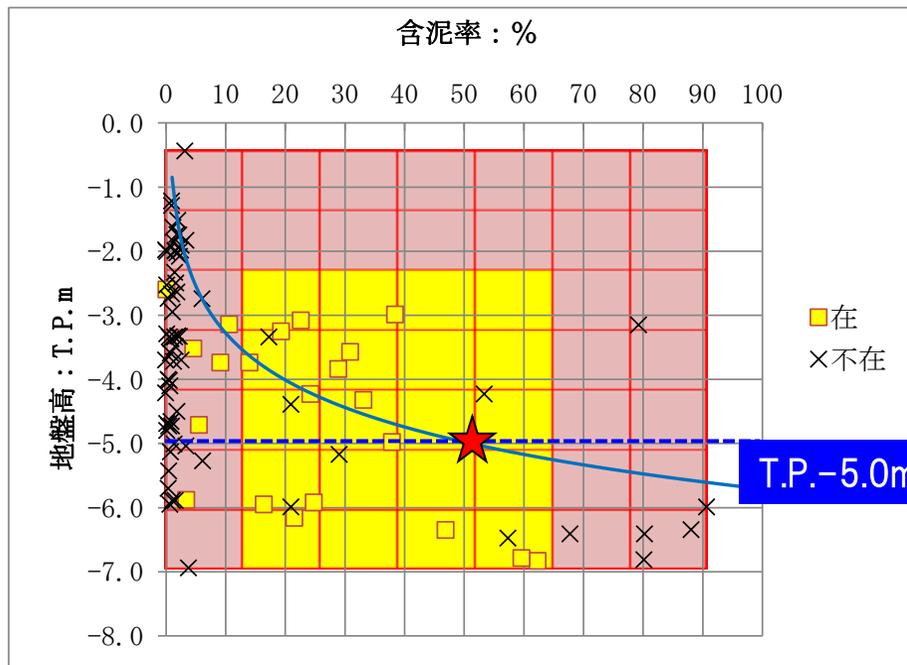
吉野川河口の粒度形成に関して、河口に襲来する波浪に着目した平衡状態の粒度形成を示した研究論文*1では、下図に示すように、吉野川河口は河口干潟の東側～沖合の河口テラスにかけて砂質、右岸沖浜では泥混じり砂質、左岸みお筋では泥質になりやすい物理特性を有していることが示された。



水深が深くなると含泥率が高くなる

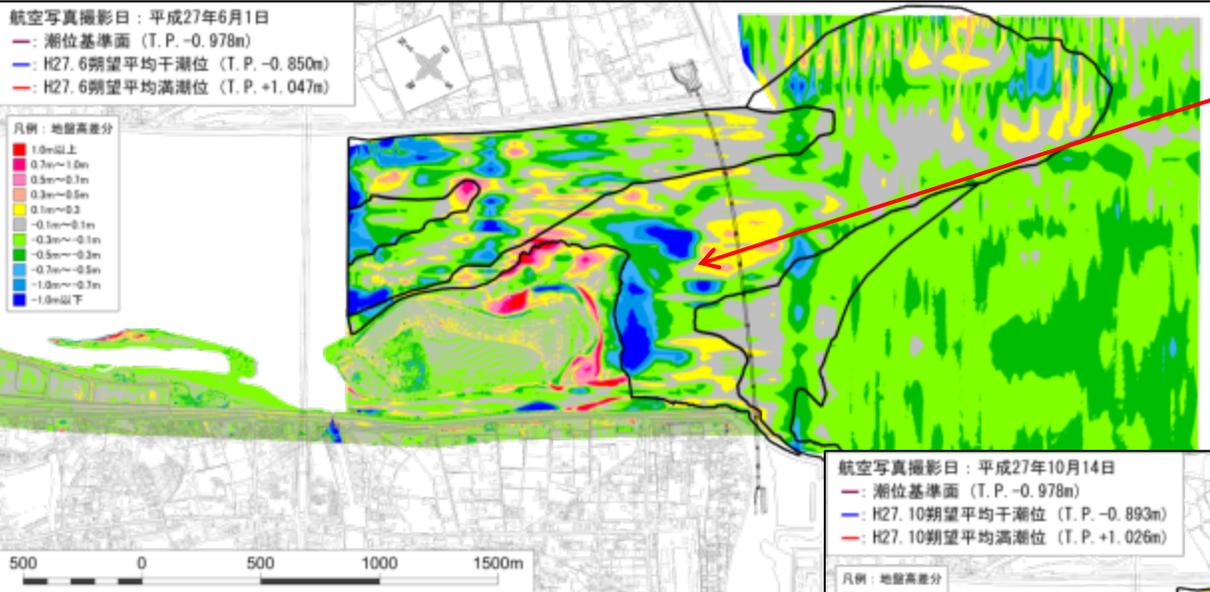
*1：参考論文又は図作成にあたってのデータの出典元
 ・海岸工学論文集「河口干潟の平衡粒度分布の推定と底生動物の生息環境評価」2007年11月、藤田真人、中野晋ら
 ・海洋開発論文集「大河川河口干潟における平衡底質粒度分布の評価方法」2007年7月、藤田真人、中野晋ら

先のページに示した地盤高と含泥率の相関グラフを、区分2の指標種の子ヨノハナガイとシノブハネエラスピオの選好度モデルに適用した図を以下に示す。台船は吃水が3.5m必要であるため、余掘りを含めて約T.P.-5.0mまで浚渫する必要がある、浚渫によって含泥率が約50%程度になる可能性がある。



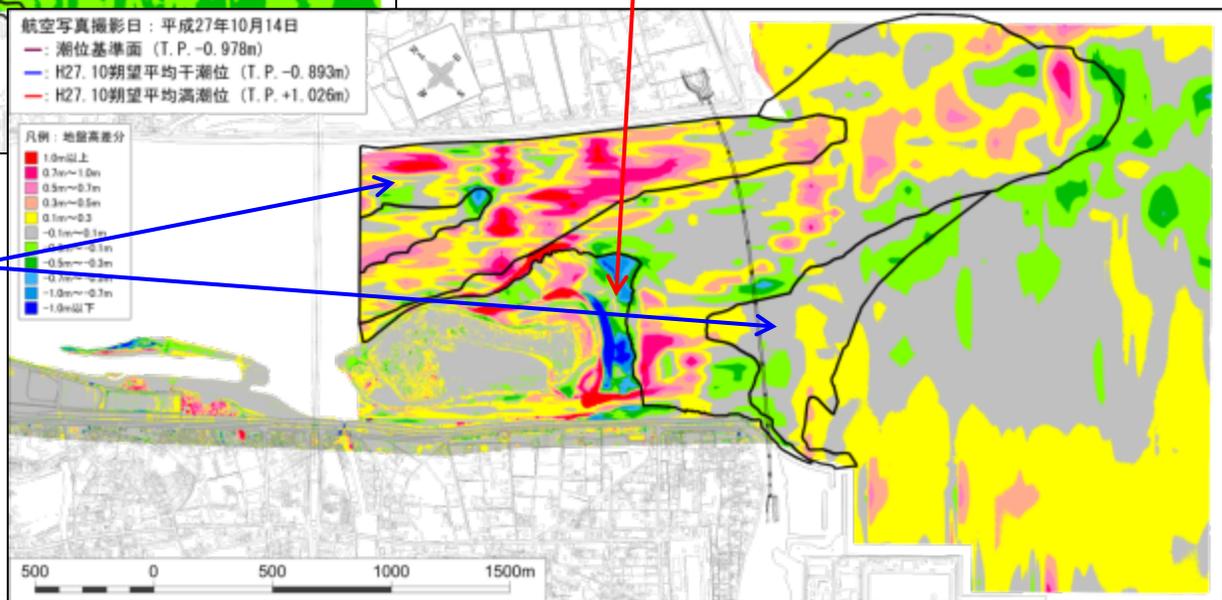
吉野川渡河部周辺の地形差分図にハビタット区分を重ね合わせた図を以下に示す。

地形差分図：平成26年10月→平成27年6月



河口干潟の東部は特に地形変化が大きいことが確認される。

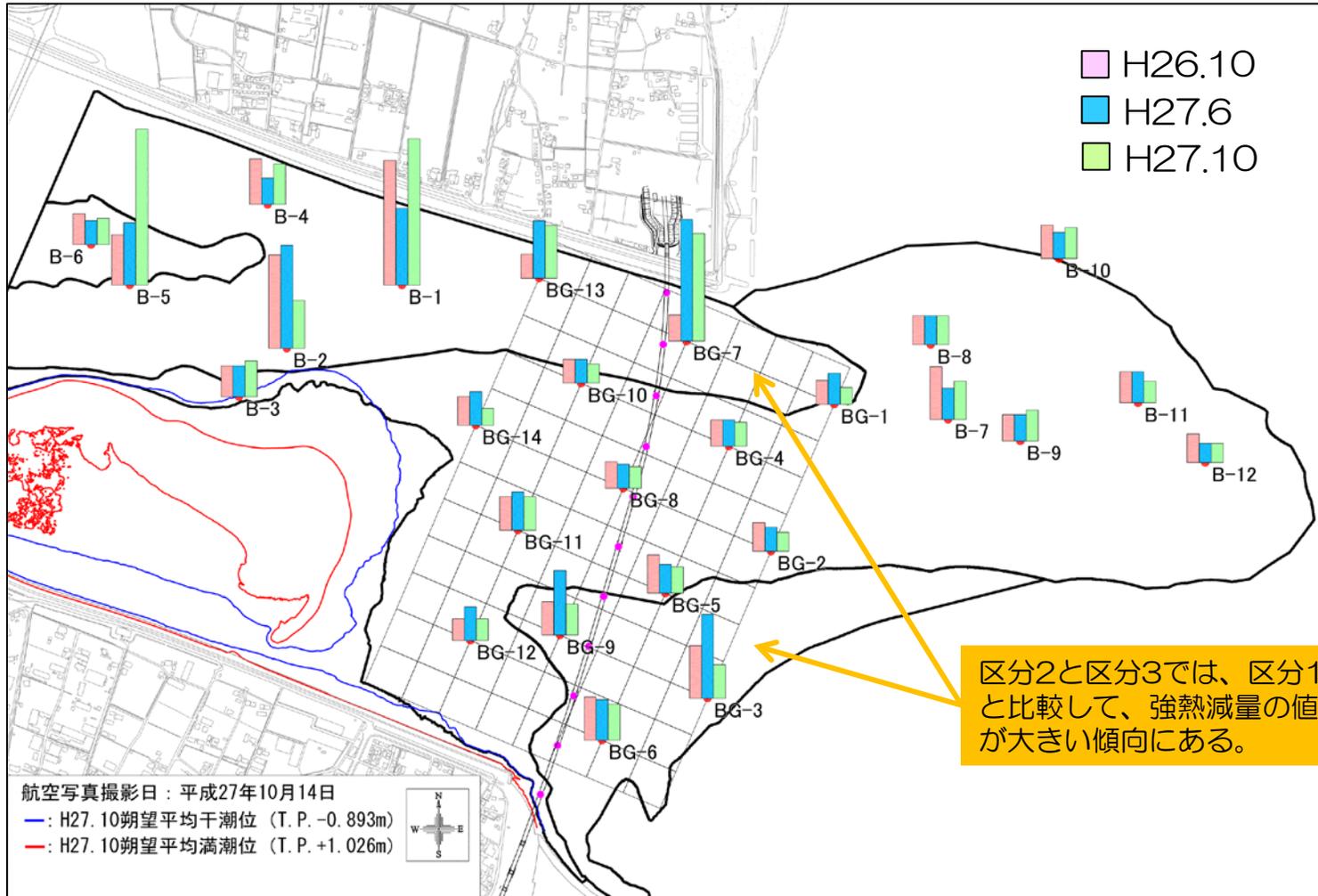
地形差分図：平成27年6月→平成27年10月



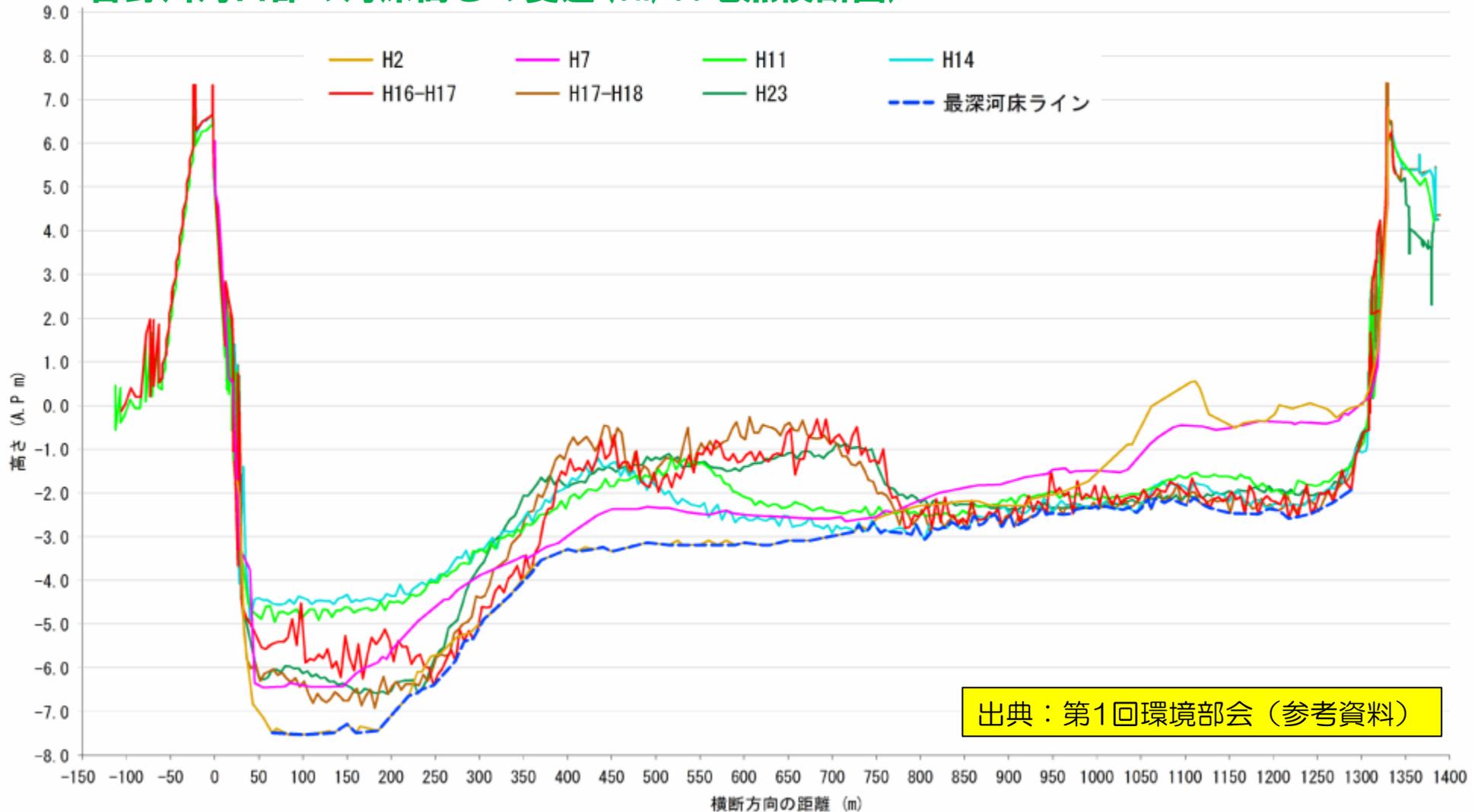
区分2と3では、土砂の侵食・堆積傾向が異なっている。

潮下帯定量調査(強熱減量)の結果を以下に示す。

■強熱減量の分布図



吉野川河口部の河床高さの変遷 (0k/00地点横断面図)



出典：第1回環境部会（参考資料）